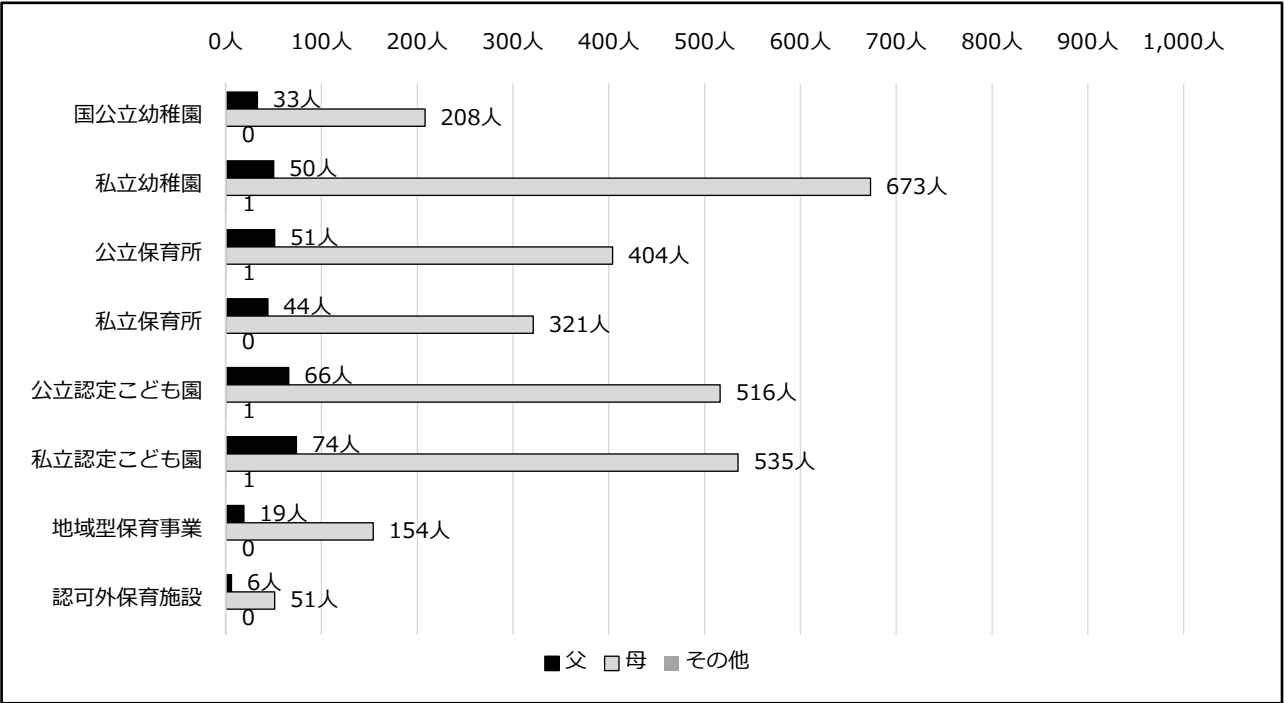


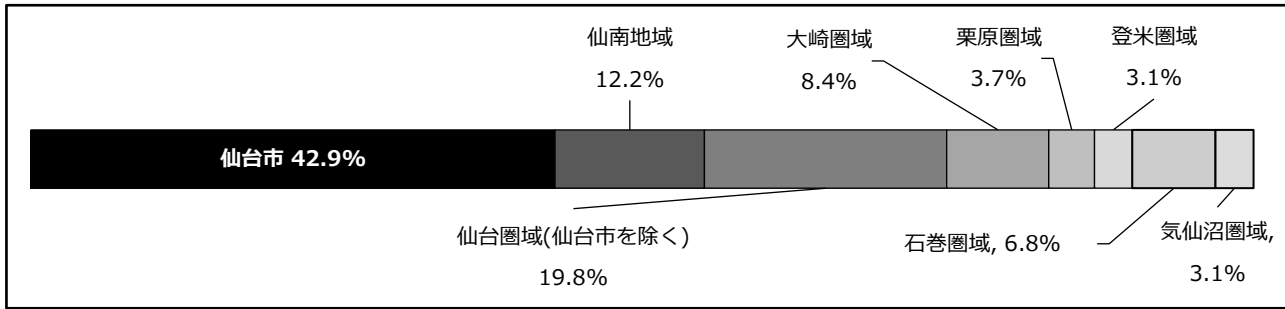
幼児教育に関わるアンケート結果（対象者：保護者）

回答数

対 象 施 設			保護者(父親)	保護者(母親)	保護者(その他)	合 計
施 設 区 分		施 設 数				
幼 稚 園	国公立	45	33	208	0	241
	私 立	97	50	673	1	724
	小 計	142	83	881	1	965
保 育 所	公 立	122	51	404	1	456
	私 立	213	44	321	0	365
	小 計	335	95	725	1	821
認定こども園	公 立	13	66	516	1	583
	私 立	237	74	535	1	610
	小 計	250	140	1,051	2	1,193
地 域 型 保 育 事 業		270	19	154	0	173
認 可 外 保 育 施 設		241	6	51	0	57
合 計		1,238	343	2,862	4	3,209



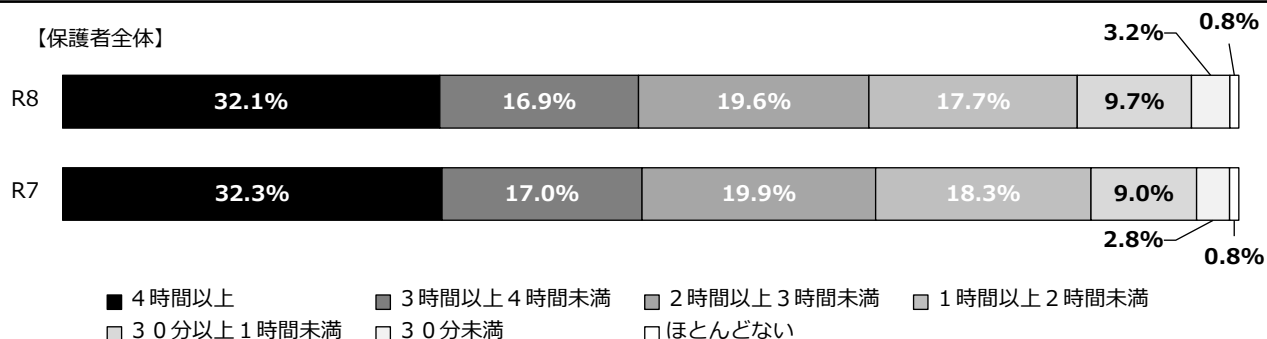
居住地



1 親子のかかわりについて

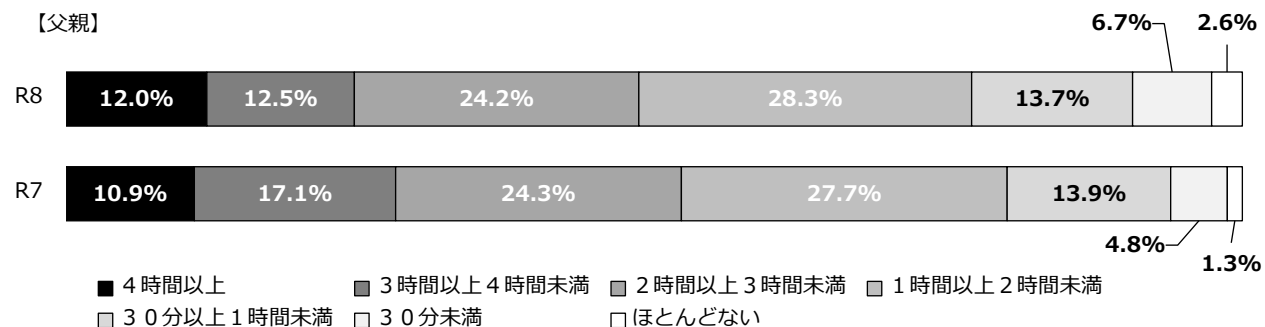
1-1-1 あなたは、平日（休日以外）にお子さんと触れ合う時間はどの位ありますか。（食事と入浴を除いた1日当たりの平均時間）

【保護者全体】

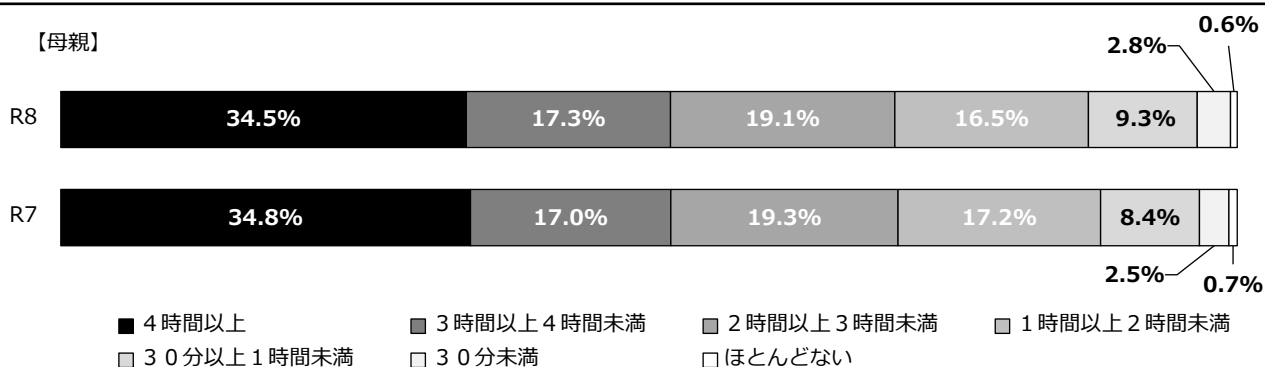


（父親・母親別内訳）

【父親】



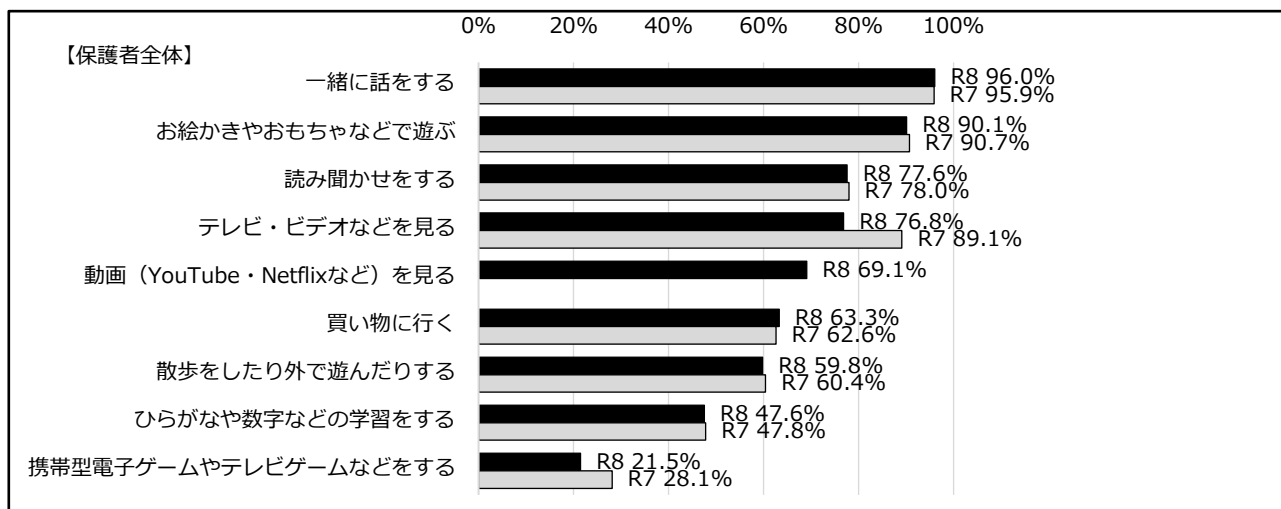
【母親】



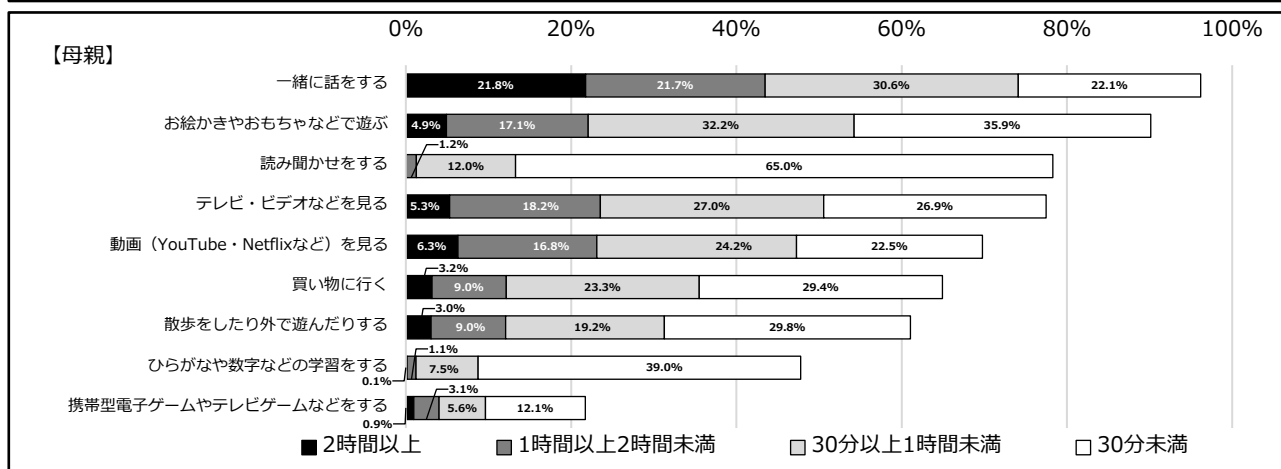
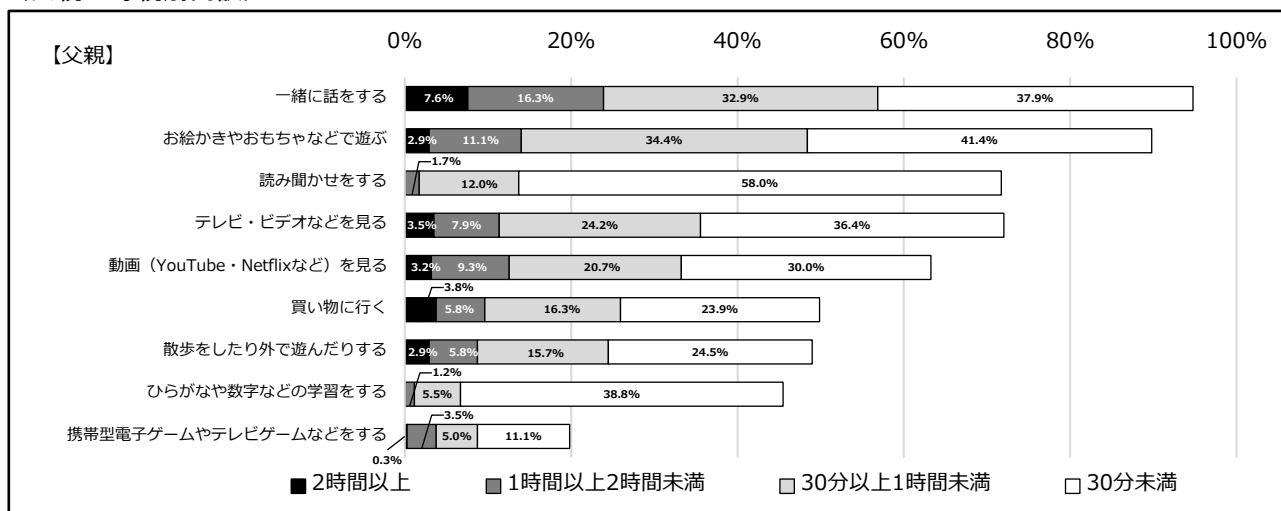
【概要・考察等】

- 平日、子供と触れ合う時間が1時間以上と回答した保護者全体の割合は、1.2ポイント減であり、父親・母親別では、母親が0.9ポイント、父親が3.0ポイント減少した。

1-1-2 「1-1-1」で選択した「触れ合う時間」において、お子さんと一緒に何をすることが多いですか。（該当するもの全てを選択し、それぞれの時間も選択）



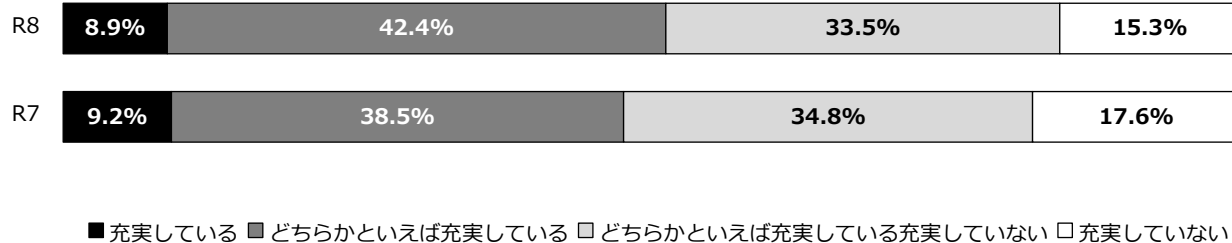
（父親・母親別内訳）



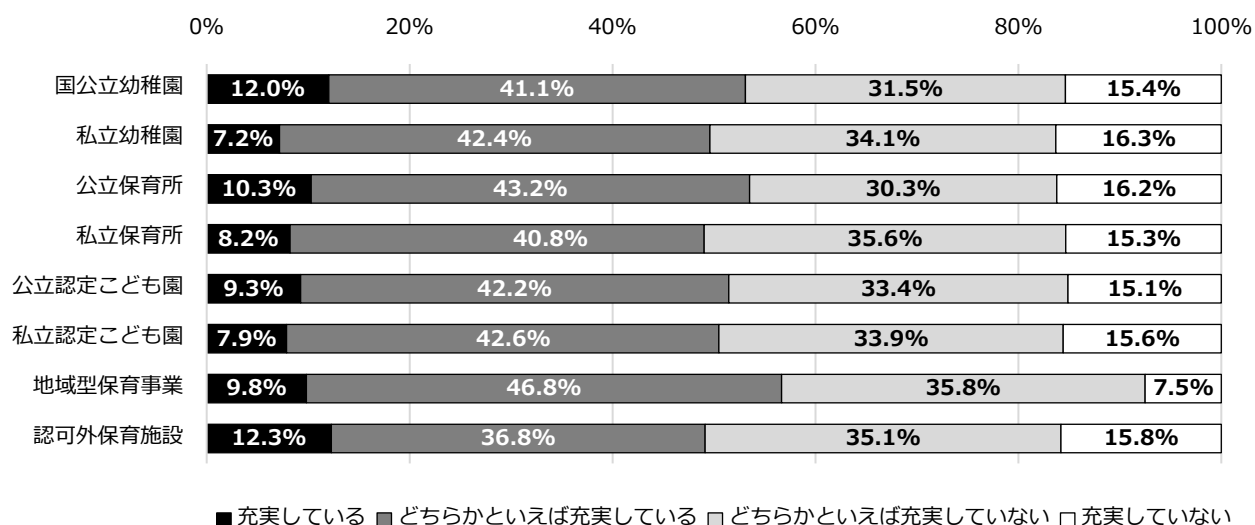
【概要・考察等】

- 子供と触れ合う内容について、「一緒に話をする」と回答した割合が昨年度同様、最も高く、次いで「お絵かきやおもちゃなどで遊ぶ」「読み聞かせをする」となった。「読み聞かせをする」と回答した割合は、昨年度と変わらず、77.6%と高い割合であり、引き続き、読み聞かせの効果等を様々な機会でも周知していく。
- 「携帯型電子ゲームやテレビゲームなどをする」と回答した割合は昨年度より6.6ポイント減少し、30分未満と回答している割合が多くを占めていることや父親、母親共に「一緒に話をする」など、平日でも可能な方法で「触れ合う時間」をつくっていることから、家庭での親子での愛着形成は図られてきていることがうかがえる。

1-2 親として成長していくための学ぶ機会（妊娠・出産や子育てなどに関する教室や講座など）は充実していますか。



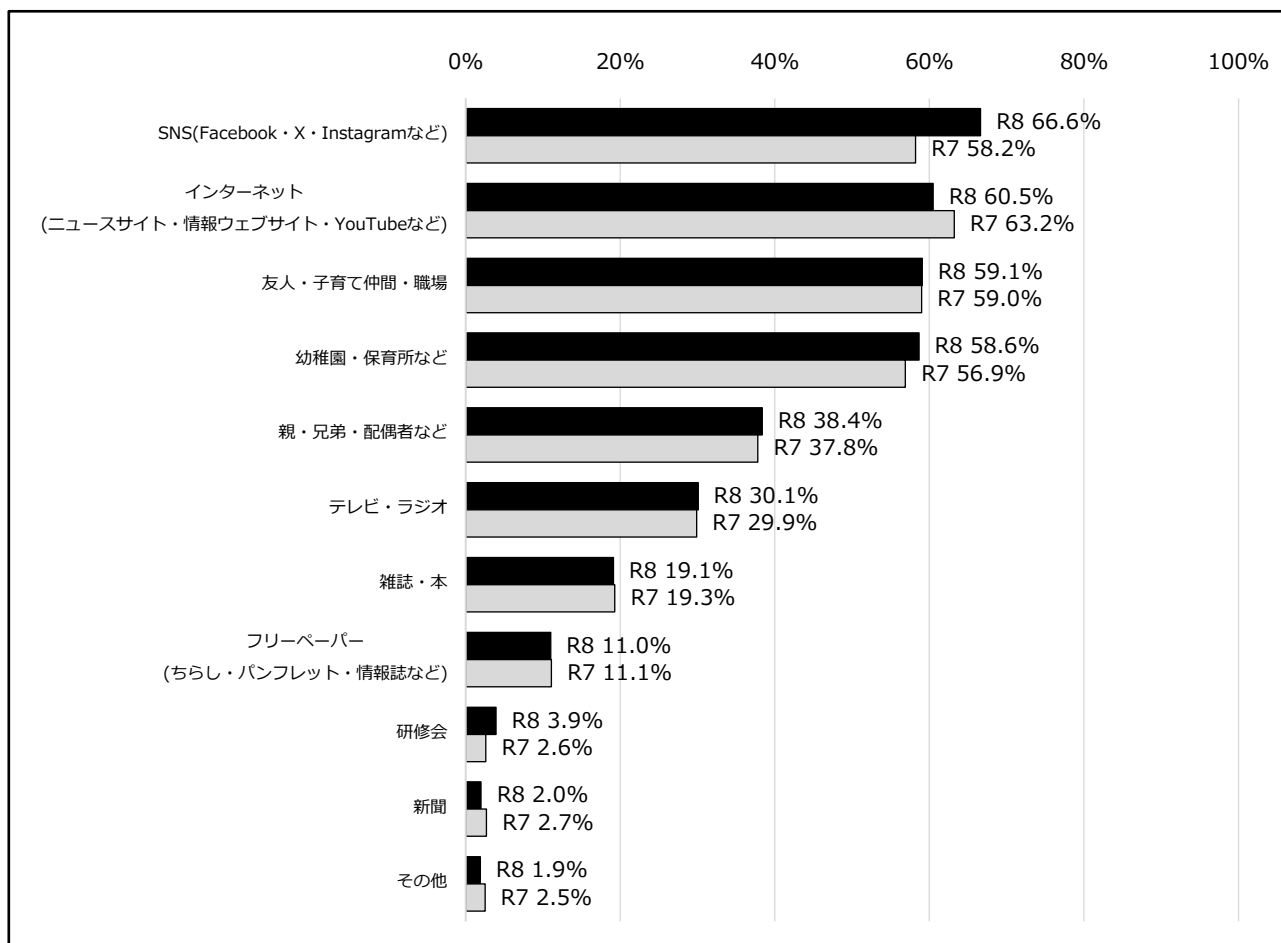
（施設類型別内訳）



【概要・考察等】

- 学ぶ機会が「充実している」「どちらかといえば充実している」と回答した割合は、昨年度より3.6ポイント増加であった。
- 「充実している」「どちらかといえば充実している」と回答した割合は、51.3%と約半数であることから、学ぶ機会に対する保護者のニーズを把握するとともに、学ぶ機会や情報提供の方法を継続して工夫していく必要がある。

1-3 子育てに関する情報（知識）は、主にどのようなところから得ていますか。（該当するもの全て選択）



【その他の主な内容】

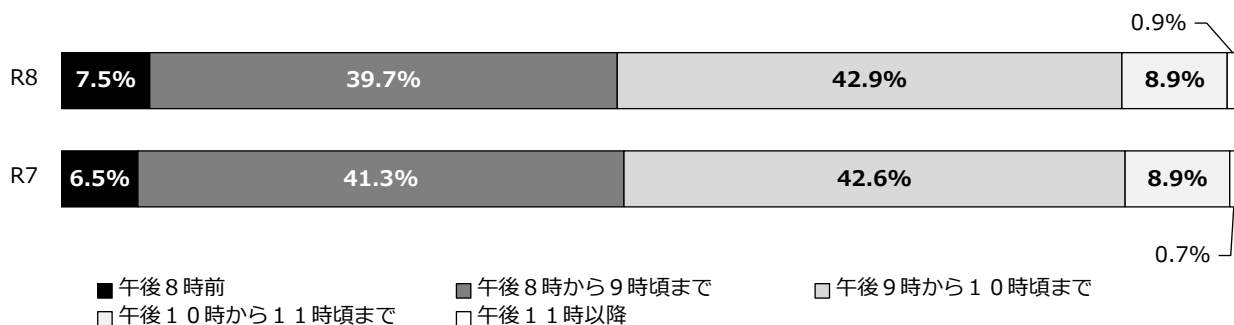
児童館、子育て支援センター、生成AI、かかりつけ医

【概要・考察等】

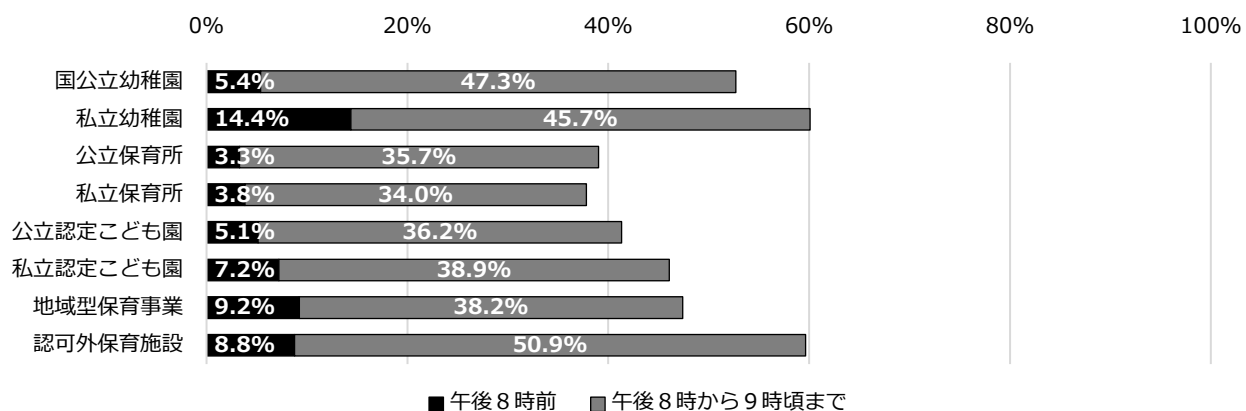
- 「SNS（Facebook・X・Instagram）」と回答した割合が最も高く、「インターネット（ニュースサイト・情報ウェブサイト・YouTubeなど）」「友人・子育て仲間・職場」がそれに続いている。
- 「幼稚園・保育所など」の割合が昨年度より、1.7ポイント増加した。
- 「雑誌・本」「フリーペーパー」「新聞」の割合が減少していく一方で、「SNS（Facebook・X・Instagramなど）」と回答した割合が、年々増加傾向にある。紙媒体からデジタル媒体へのシフトが進んでいるため、スマートフォンやパソコン等を活用する情報提供の方法は、効果的・効率的であると考えられる。

2 お子さんの基本的生活習慣について

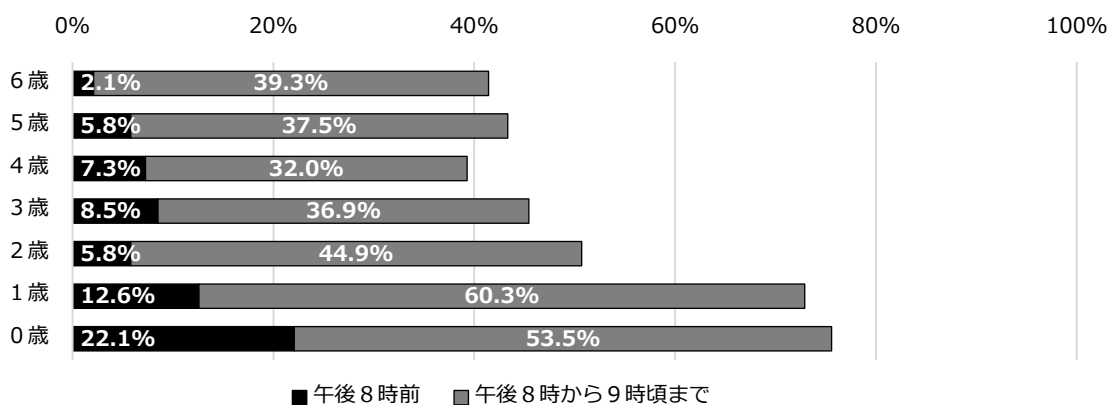
2-1-1 お子さんはいつも何時頃に寝ていますか。



(施設類型別内訳)



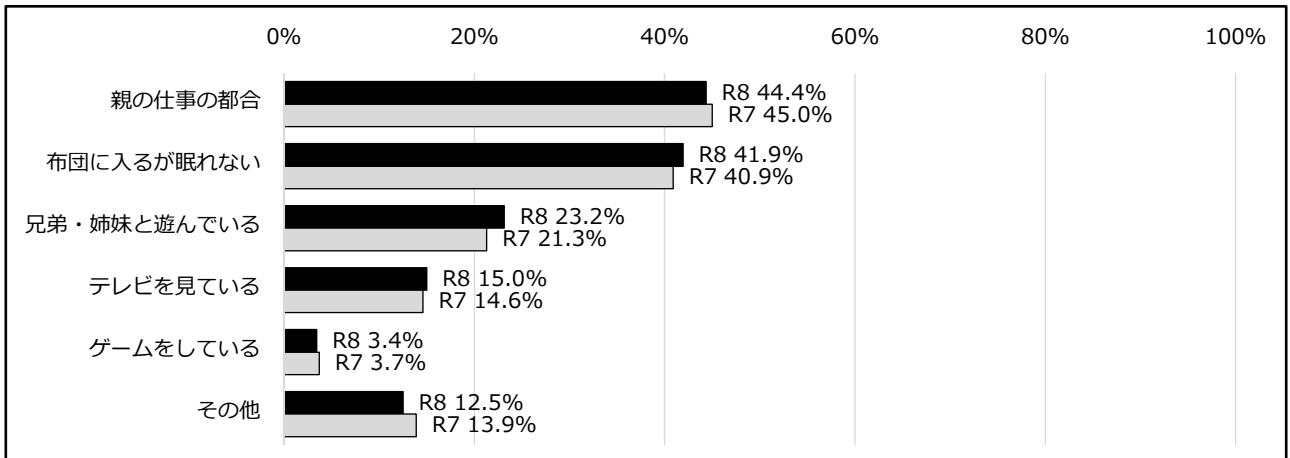
(年齢別内訳)



【概要・考察等】

- 「子供が『午後9時頃まで』に就寝する」と回答した割合は、昨年度より減少した。
- 施設類型別内訳で、幼稚園等に比べて保育所の方が「午後9時頃まで」と回答する割合がかなり低いことから、親の仕事の関係による生活時間も、就寝に大きく影響していると考えられる。

2-1-2 「2-1-1」で「午後9時から10時頃まで」、「午後10時から11時頃まで」又は「午後11時以降」を選択した方は、お子さんが午後9時以降に寝る理由をお答えください。（該当するもの全て選択）



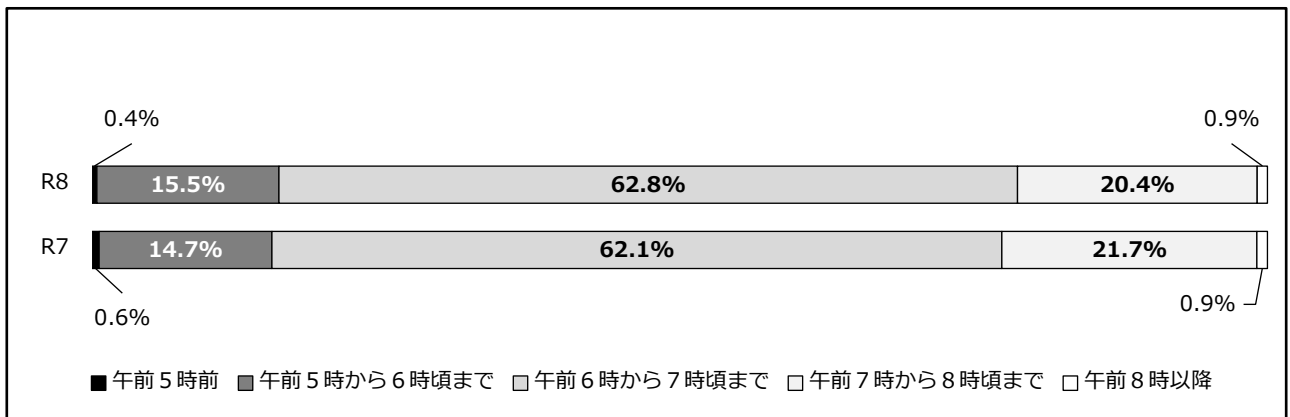
【その他の主な内容】

親の家事が終わるのを待っているため、兄弟の習い事の送迎に連れていくため、ワンオペレーションのため

【概要・考察等】

- 「親の仕事の都合」を理由として回答した割合は、昨年度より減少し、「布団に入るが眠れない」と回答した割合は昨年度より増加した。引き続き、家庭生活と親の仕事の調和について、社会全体で考え、取り組む必要がある。
- 「その他」では、「親の家事が終わるのを待っている」「兄弟の習い事の送迎」「ワンオペレーション」などの記述も見られることから、睡眠は子供の健やかな発育・発達に大切であるということについて、引き続き啓発していく必要がある。

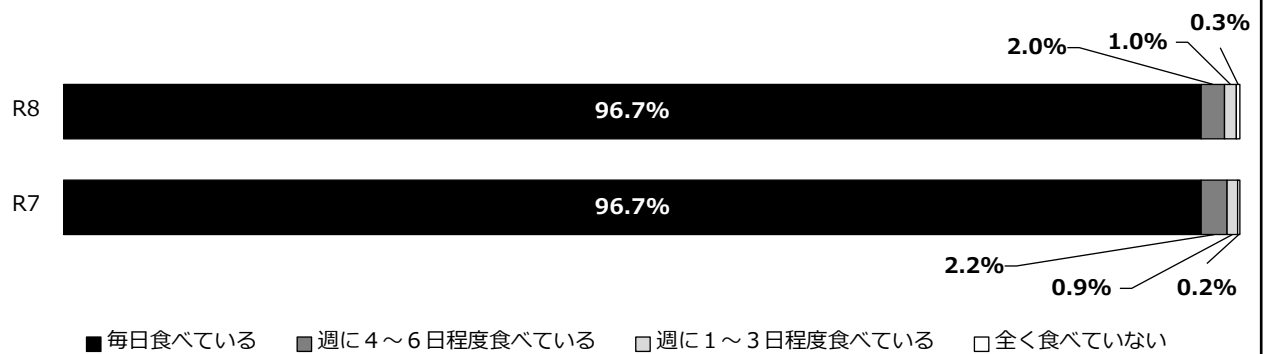
2-2 お子さんはいつも何時頃に起きますか。



【概要・考察等】

- 「子供が『午前7時頃』まで起床する」と回答した割合は、1.3ポイント増加した。

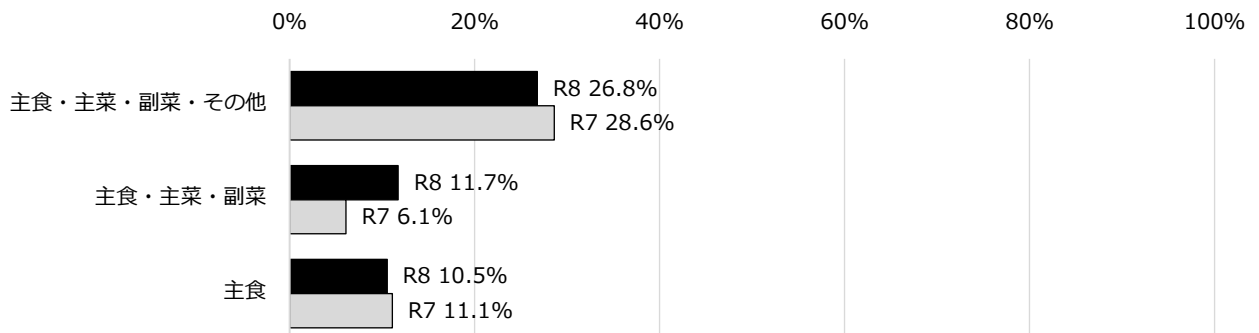
2-3-1 お子さんは毎日、朝ごはんを食べていますか。



【概要・考察等】

- 朝食を「毎日食べている」「週に4～6日程度食べている」と回答した割合は98.7%であり、昨年度とほぼ同様、高い割合を示していることから、朝食の必要性についての理解が定着していることがうかがえる。

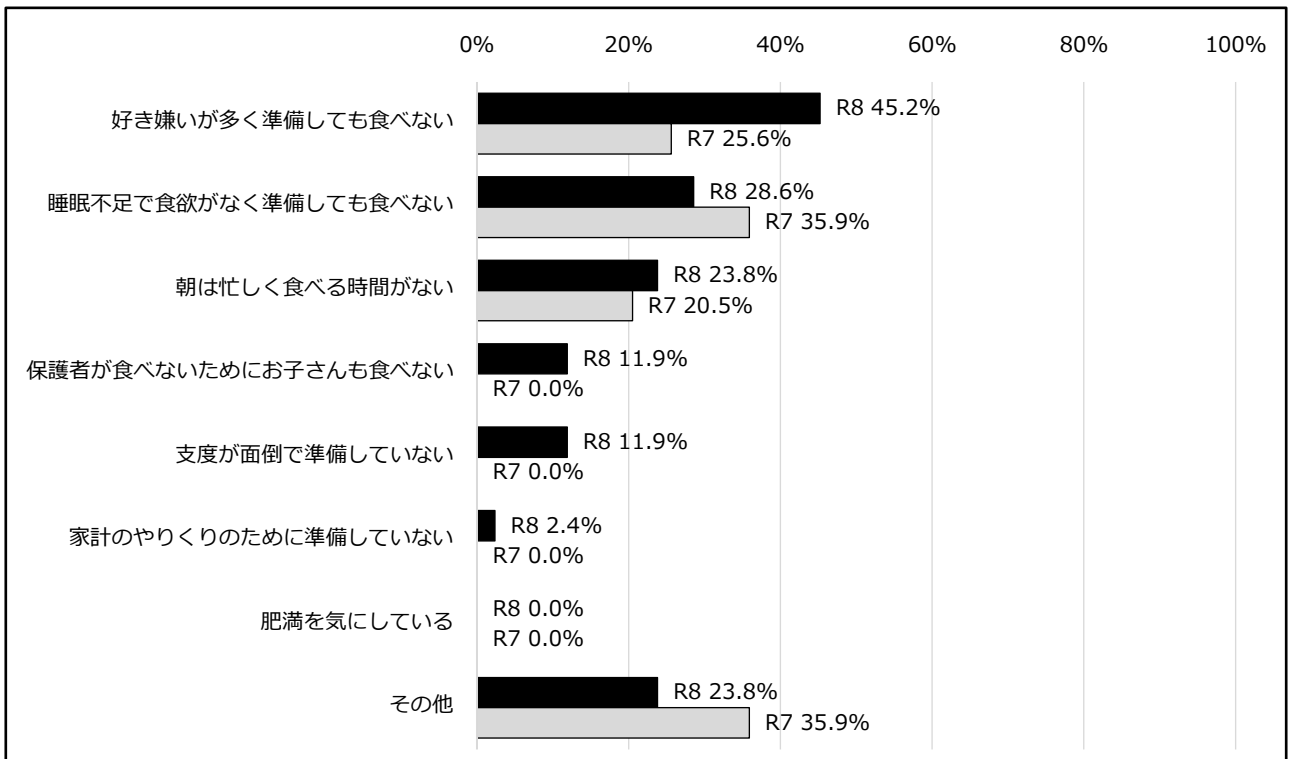
2-3-2 「2-3-1」で「毎日食べている」又は「週に4～6日程度食べている」を選択した方は、お子さんが普段朝ごはんに食べているものを全てお答えください。（該当するもの全て選択）



【概要・考察等】

- 朝食に「『主食・主菜・副菜・その他』を食べている」と回答した割合は昨年度より1.8ポイント減、「『主食・主菜・副菜』を食べている」と回答した割合は5.6ポイント増であった。
- 「『主食』のみ食べている」と回答した割合が昨年度に引き続き10%程度であることから、朝食の必要性とともに、栄養バランスのよい朝食を摂ることの重要性を合わせて啓発していく必要がある。

2-3-3 「2-3-1」で「週に1～3日程度食べている」又は「全く食べていない」を選択した方は、お子さんが朝ごはんを食べない理由をお答えください。（該当するもの全て選択）



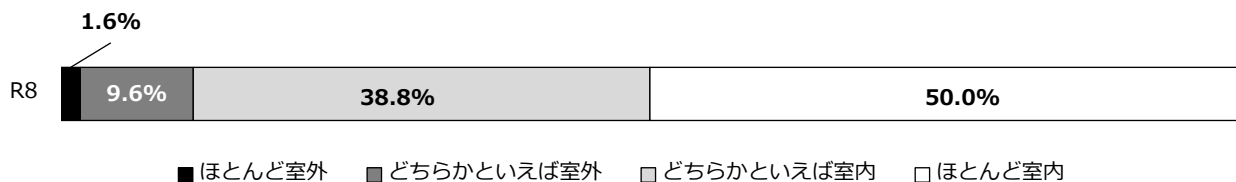
【その他の主な内容】

起床時間が遅いため、準備はするが朝の気分によって食べないことがあるため

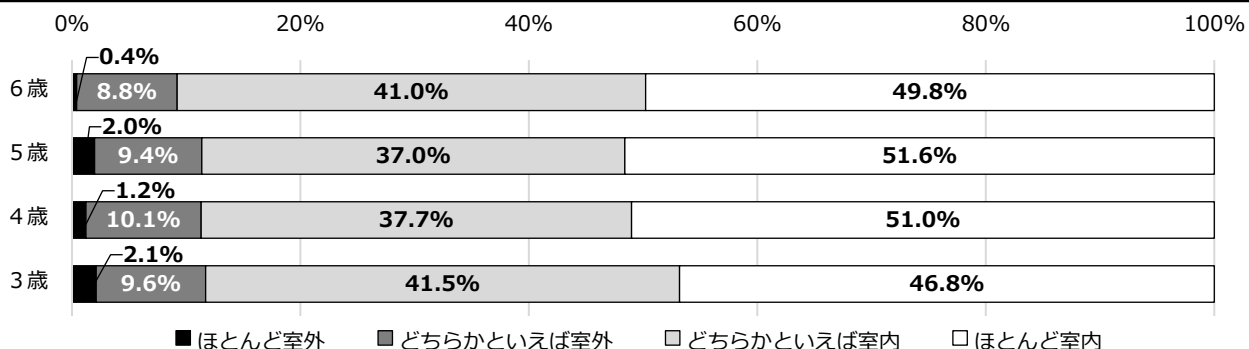
【概要・考察等】

- 「好き嫌が多く準備しても食べない」を理由として回答した割合が最も高く、昨年度より19.6ポイント増加している。生活リズムや食への興味・関心を育てるなど、子どもの生活全体を捉えた支援を工夫していく必要がある。
- 「朝は忙しくて食べる時間がない」を理由として回答した割合は、3.3ポイント増加した。起床時刻が遅いため、朝食を摂る時間が十分ではなかったことがうかがわれる。

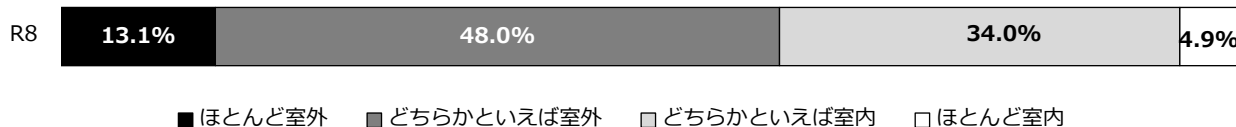
2-4-1 お子さんは平日に家庭で遊ぶとき、室内、室外のどちらが多いですか。
※ お子さんが3歳児以上の方のみ回答



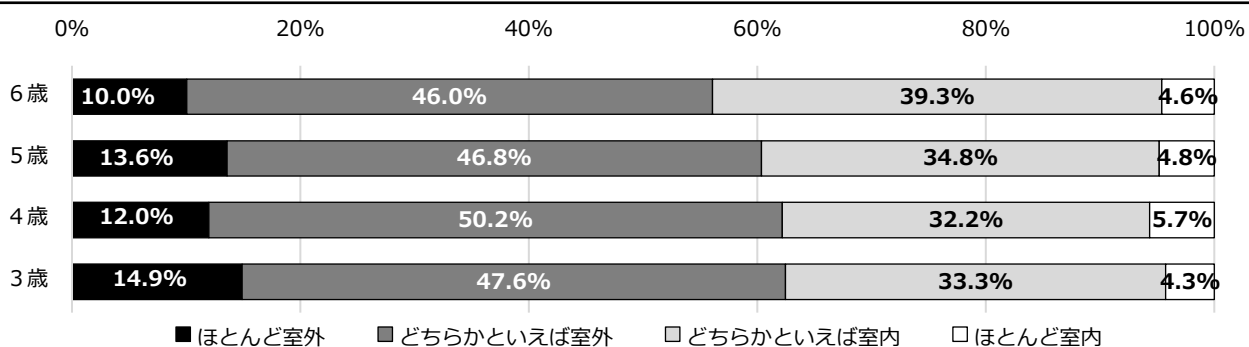
(年齢別内訳)



2-4-2 お子さんは休日に家庭で遊ぶとき、室内、室外のどちらが多いですか。
※ お子さんが3歳児以上の方のみ回答



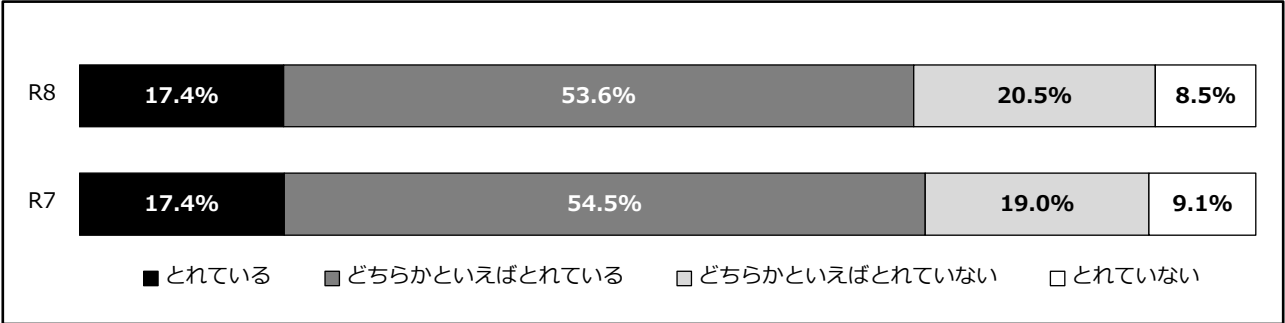
(年齢別内訳)



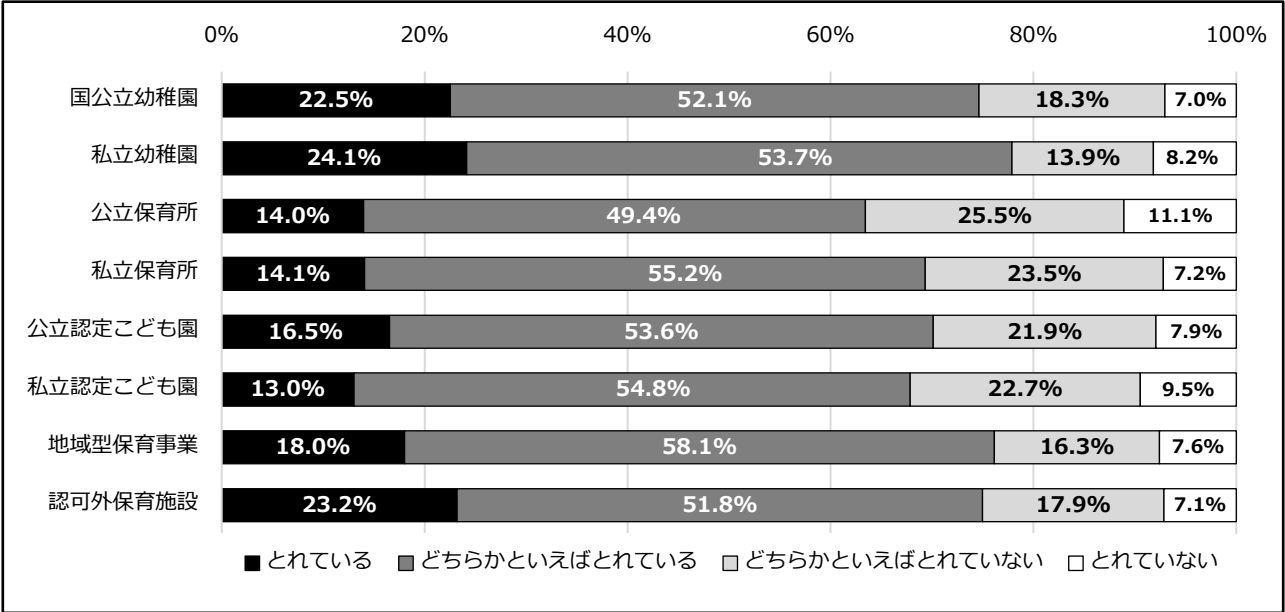
【概要・考察等】

- 家庭で遊ぶとき「ほとんど室外」と「どちらかといえば室外」と回答した割合は、平日は11.2%だが、休日は61.1%であった。平日は外で遊ぶ時間を取ることは難しいが、休日、時間に余裕があれば、半数以上の家庭で外で遊んでいることがうかがえた。
- 「ほとんど室外」「どちらかといえば室外」と回答した割合について、年齢別では、平日及び休日ともに、6歳児が3～5歳児と比較してポイントがやや低い傾向が見られた。
- 平日に比べて外で遊ぶ時間が確保しやすい休日でも、外遊びをしている家庭はおよそ6割にとどまっていることから、熱中症等の対策を行い、外遊びをしていくことのよさについて、引き続き啓発していく必要がある。

2-5-1 お子さんの基本的生活習慣の確立にもつなげる「家庭生活と仕事の調和」はとれていると感じますか。※現在、就業している方のみ回答



(施設類型別内訳)

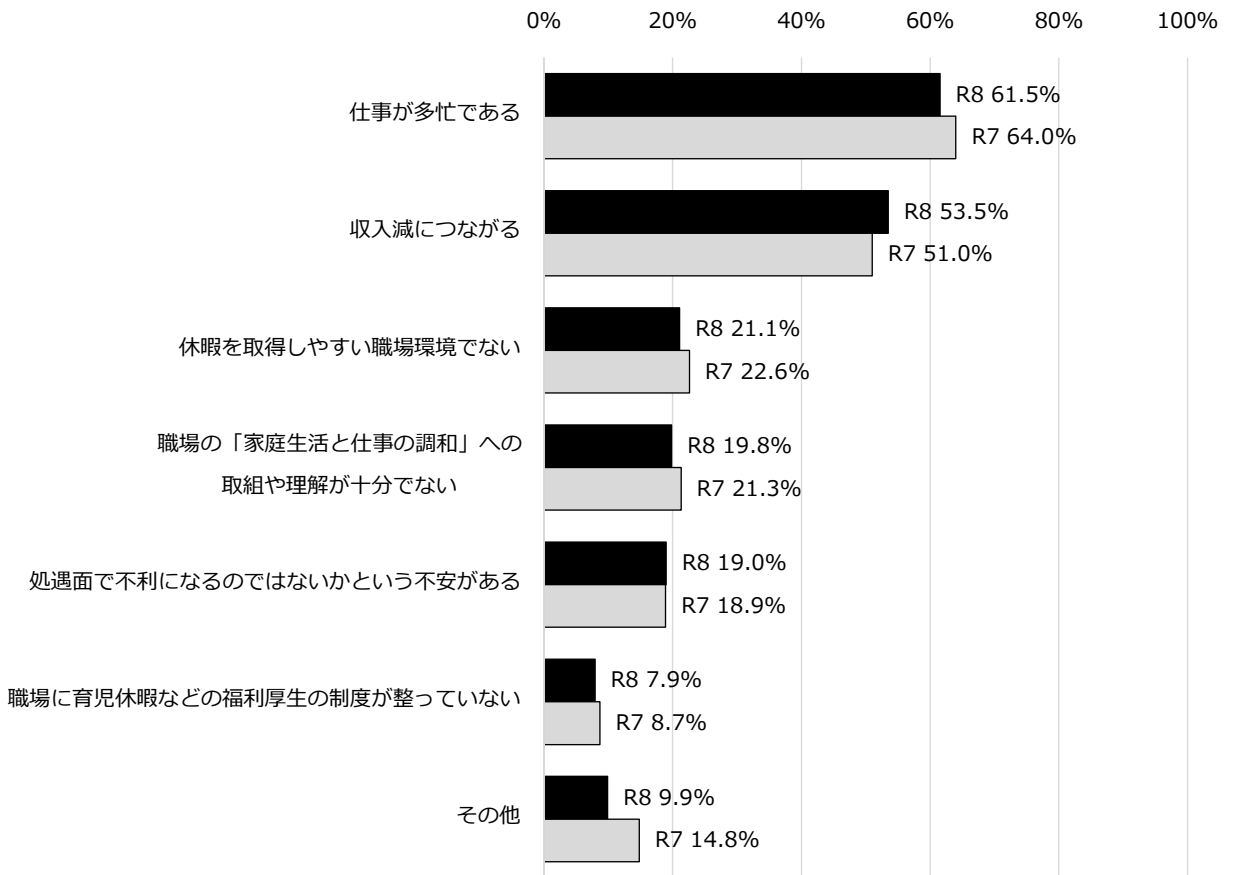


【概要・考察等】

- 家庭生活と仕事の調和が「とれている」「どちらかといえばとれている」と回答した割合は、昨年度より0.9ポイント減少し、71.0%だった。
- 家庭生活と仕事の調和は、「親子のかかわり」や「子供の基本的生活習慣づくり」にも影響することから、企業における一層の「働き方改革」の推進や「学ぶ土台づくり」に関連する施策についての啓発を図る必要がある。

2-5-2 「2-5-1」で「どちらかといえばとれていない」又は「とれていない」を選択した方は、その理由をお答えください。（該当するもの全て選択）

※ 現在、就業している方のみ回答



【その他の主な内容】

共働きのため、職場の理解がないため、仕事が多忙なため、家事に追われているため

【概要・考察等】

- 「仕事が多忙である」「収入減につながる」「休暇を取得しやすい職場環境でない」など、理由として挙げられているものの割合や傾向は昨年度とほぼ同じである。「仕事が多忙である」と回答した割合は昨年度より2.5ポイント減少したものの、以前、高い割合となっている。
- 「収入減につながる」との回答が2.5ポイントの増加となり、昨年度に引き続き、収入や経済面に対する関心・不安が高まるような状況が考えられる。

2-6 子供の基本的生活習慣の確立に向けた「ルルブル」の取組に関して、家庭における取組状況についてお答えください。

R8	17.5%	33.3%	25.8%	23.4%
R7	14.7%	35.6%	22.2%	27.5%

- ☒ 「ルルブル」を実践（意識）している
- ☒ 「ルルブル」は知らないが、その内容は実践（意識）している
- ☐ 「ルルブル」は知っているが、実践（意識）していない
- ☐ 「ルルブル」を知らないし、実践（意識）していない

【概要・考察等】

- 「ルルブル」の取組を「実践（意識）している」「知らないが、その内容は実践（意識）している」と回答した割合は、昨年度より0.5ポイント増加し、「実践している」割合は、50.8%であった。
- 「実践（意識）している」「知っているが、実践（意識）していない」と回答した割合は、昨年度より6.4ポイント増加し、「知っている」割合は、43.3%であった。
- 「知っている」と回答した割合が半数に満たないことから、引き続き「ルルブル」の取組の普及啓発を図り、基本的生活習慣の確立の重要性について理解を促進していくとともに、実践につなげる取組を行っていく必要がある。

2-7 幼児教育の充実に向けた「学ぶ土台づくり」の取組に関して、家庭における取組状況についてお答えください。

R8	20.9%	39.1%	15.5%	24.6%
R7	19.5%	40.4%	14.0%	26.1%

- ☒ 「学ぶ土台づくり」を実践（意識）している
- ☒ 「学ぶ土台づくり」は知らないが、その内容は実践（意識）している
- ☐ 「学ぶ土台づくり」は知っているが、実践（意識）していない
- ☐ 「学ぶ土台づくり」を知らないし、実践（意識）していない

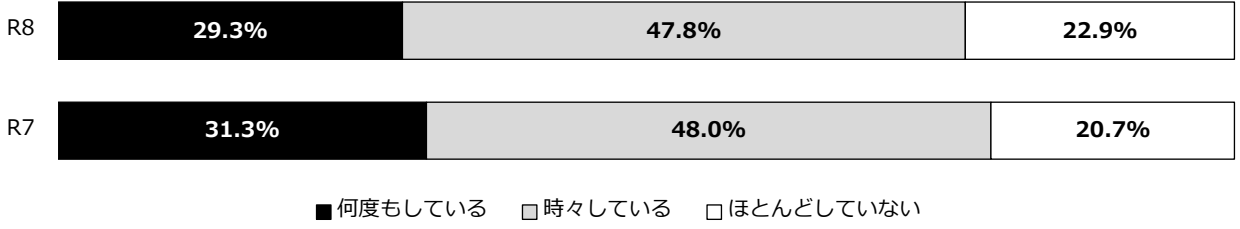
【概要・考察等】

- 「学ぶ土台づくり」の取組を「実践（意識）している」「知らないが、その内容は実践（意識）している」と回答した割合は、昨年度より0.1ポイント増加し、「実践している」割合は60.0%であった。
- 「実践（意識）している」「知っているが、実践（意識）していない」と回答した割合は、昨年度より2.9ポイント増加し、「知っている」割合は36.4%であった。
- 「知っている」と回答した割合が4割に満たないことから、あらゆる機会を通じて「学ぶ土台づくり」の取組の普及啓発を図っていくことが必要である。

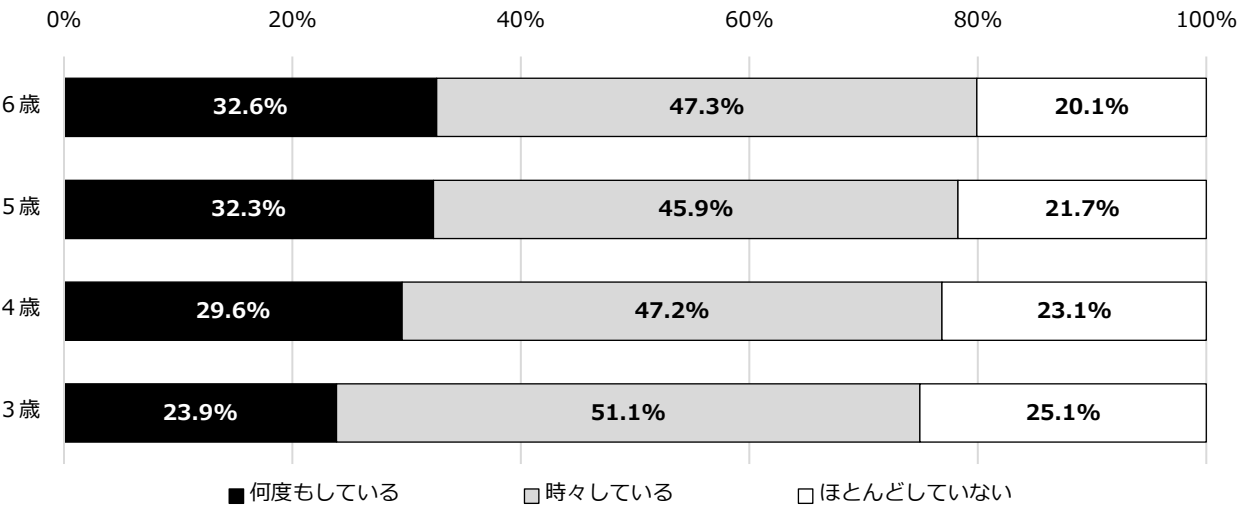
種 別	ルルブル		学ぶ土台づくり	
	教員・保育士	保 護 者	教員・保育士	保 護 者
実践（意識）している	47.6%	17.5%	56.4%	20.9%
知らないが その内容は実践（意識）している	10.1%	33.3%	12.3%	39.1%
実践（意識）している割合	57.7%	50.8%	68.7%	60.0%
知っているが 実践（意識）していない	34.8%	25.8%	25.0%	15.5%
知らないし 実践（意識）していない	7.5%	23.4%	6.3%	24.6%

3 お子さんの体験活動について

3-1-1 お子さんは自然体験活動（水遊び、虫捕り、キャンプ、ハイキングなど）をどの位していますか。※お子さんが3歳児以上の方のみ回答

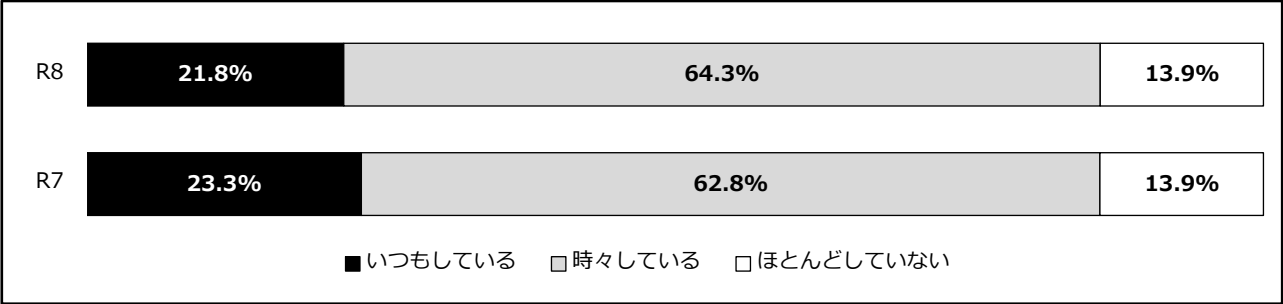


(年齢別内訳)

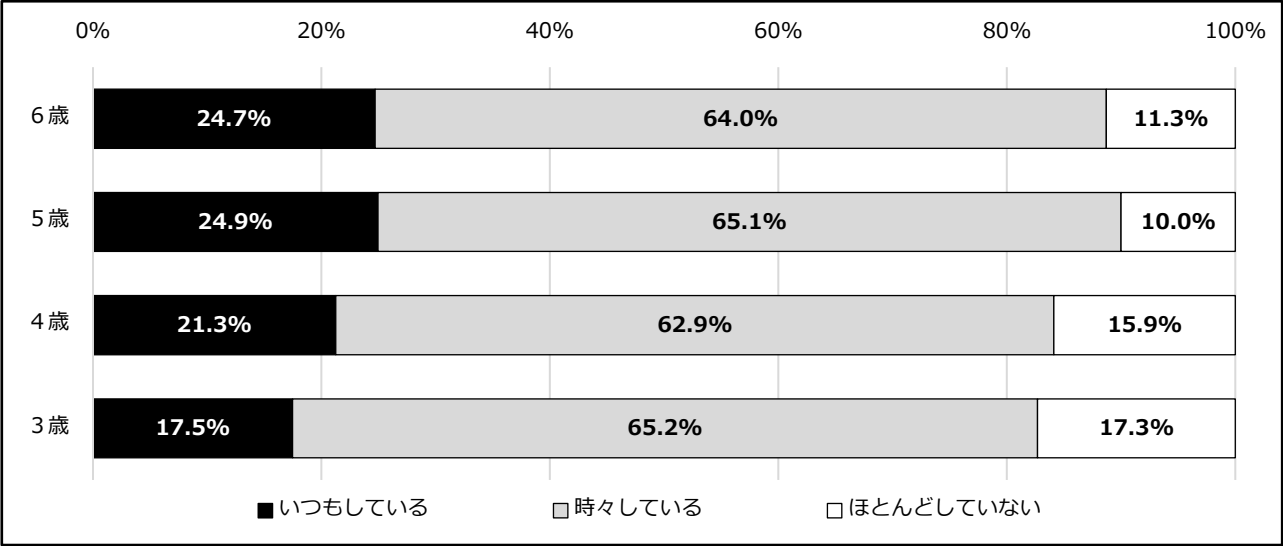


- 【概要・考察等】
- 自然体験活動を「何度もしている」「時々している」と回答した割合は、77.1%で昨年度より2.2ポイント減少した。
 - 年齢別では、「何度もしている」と回答した割合は3～6歳まで年齢が上がるにつれ、高くなる傾向が見られる。

3-1-2 お子さんは家事・手伝い（食事の配膳・片付けや掃除、洗濯物をたたむなど）をどの位していますか。※お子さんが3歳児以上の方のみ回答

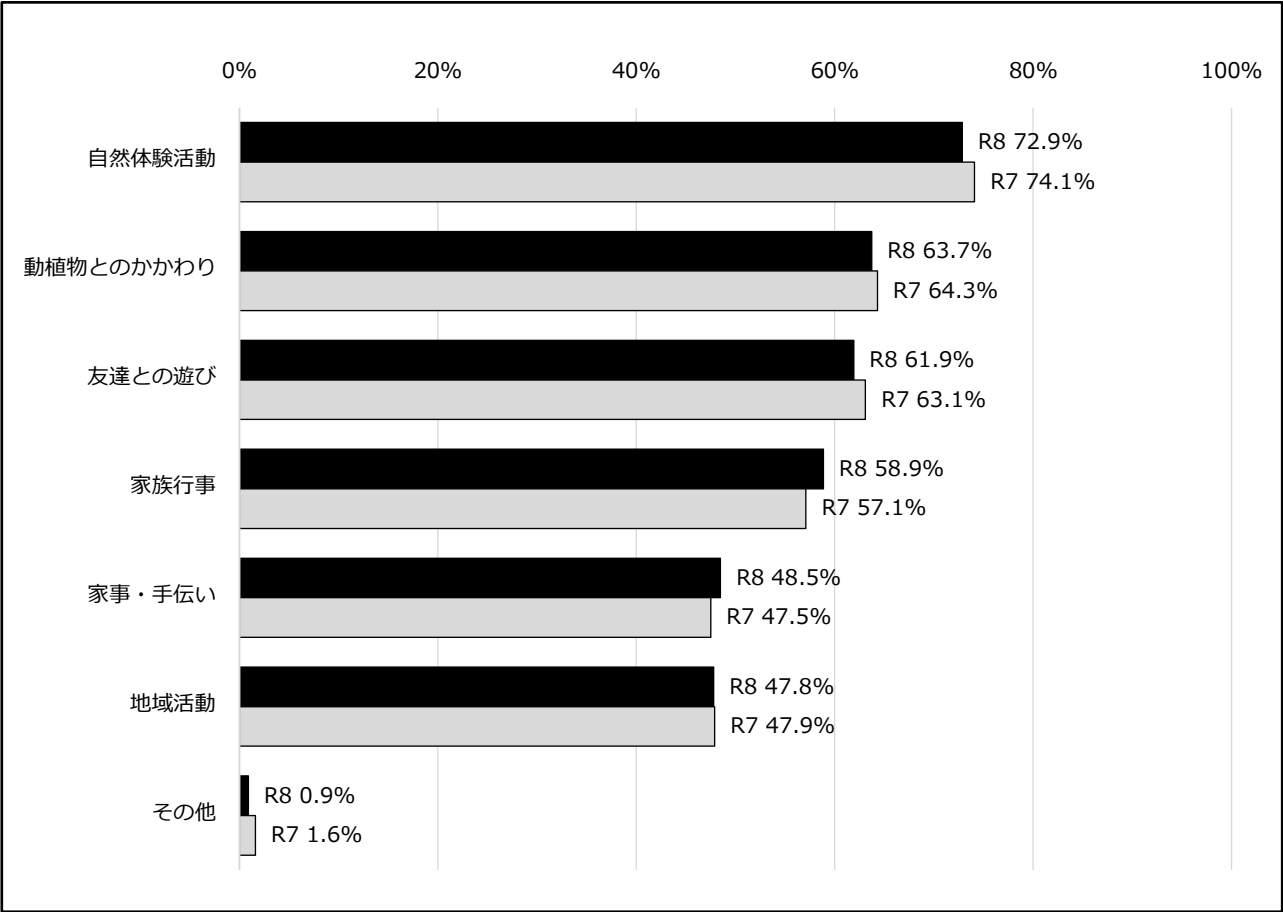


(年齢別内訳)



- 【概要・考察等】**
- 家事・手伝いを「いつもしている」「時々している」と回答した割合は86.1%で、昨年度と同じ割合である。
 - 年齢別では、年齢が上がるにつれて、「いつもしている」「時々している」と回答する割合が高くなる傾向があり、全ての年齢において80%以上が何らかの手伝いをしている。年齢が上がるにつれてできることも増え、子供が家族の一員としての存在であることを認識し、家庭での役割を積極的に果たすことができるようになっていくことがうかがえる。

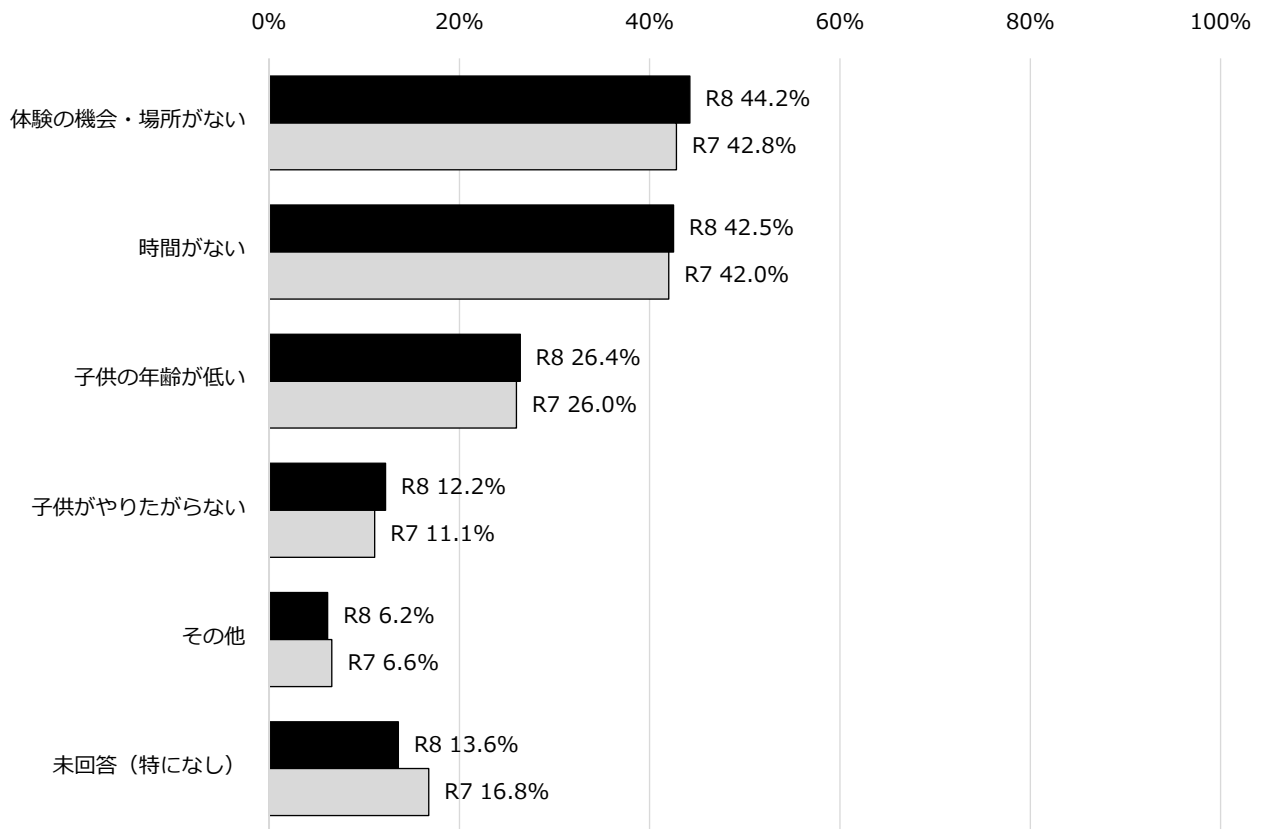
3-2-1 家庭や地域でお子さんに体験させたい活動をお答えください。（該当するもの3つ選択）



【その他の主な内容】
スポーツ、芸術、職業体験、旅行、習い事、海外の人との交流

- 【概要・考察等】
- 「自然体験活動」「動植物とのかかわり」「友達との遊び」の順に回答した割合が高い。
 - 「家族行事」については、昨年度より1.8ポイント、「家事・手伝い」については、昨年度より1ポイント増加した。

3-2-2 「3-2-1」の「お子さんに体験させたい活動」について、お子さんに体験させることが難しいと感じることがありましたら、その理由をお答えください。（該当するもの全て選択）



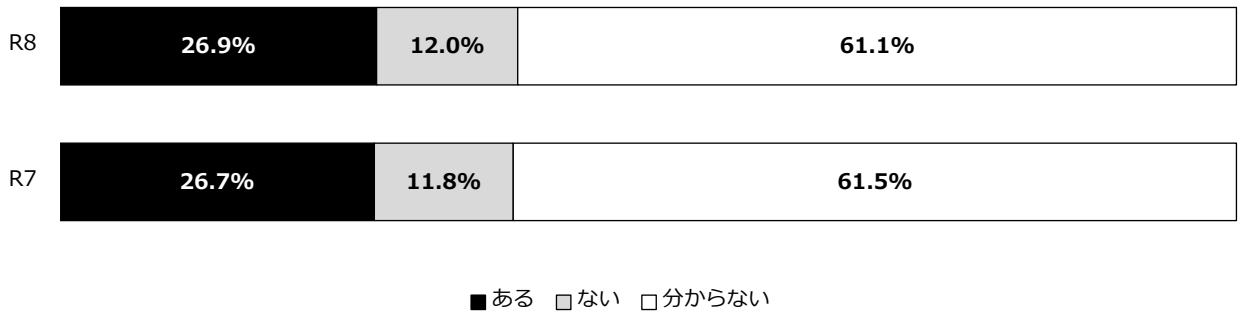
【その他の主な内容】

金銭的に難しいため
 仕事が多忙なため
 年齢が異なる兄弟と一緒に参加可能なイベントが少ないため
 移動手段が無いため
 子供に障害があるため
 熊の出没が多いため

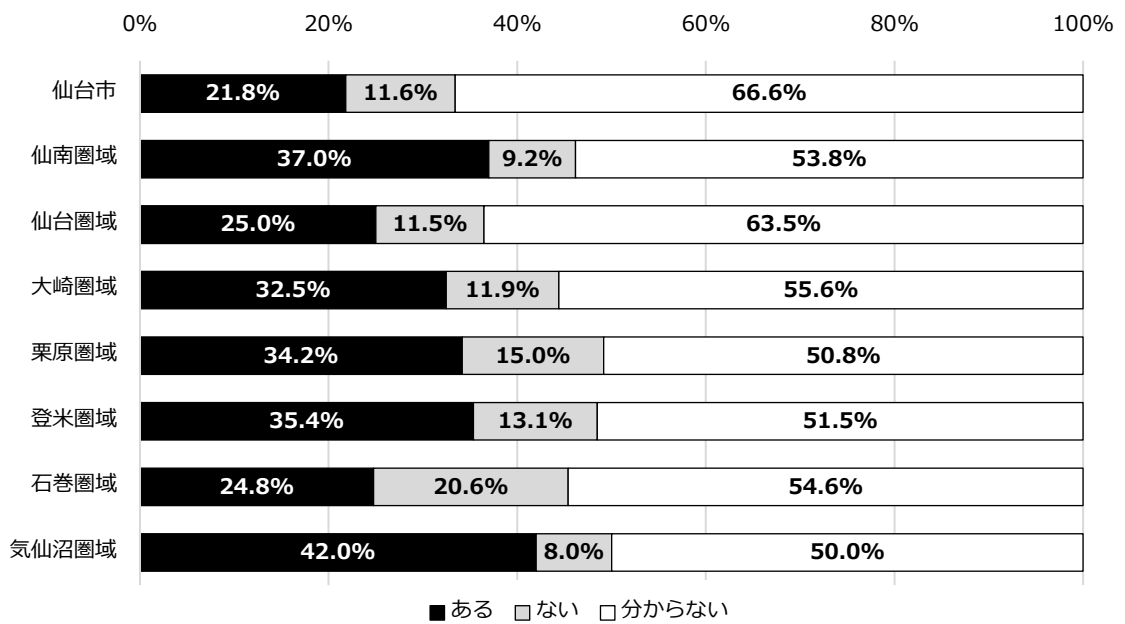
【概要・考察等】

- 昨年度と同様、「体験の機会・場所がない」「時間がない」「子供の年齢が低い」の順に回答した割合が高かった。「体験の機会・場所がない」が1.4ポイント、「時間がない」は0.5ポイント増加した。
- 「その他」の記述で「金銭的に難しい」「仕事が多忙」などがあり、体験活動をさせることに対する親の負担感がうかがえた。
- 引き続き、地域の公園・児童館等の公共施設やコミュニティー等にも目を向け、できる範囲で戸外に出掛けることも大切な体験活動であることについての理解を促進していく必要がある。

3－3 あなたがお住まいの地域では、自然体験活動などについて参加できるイベントや催しなどがありますか。



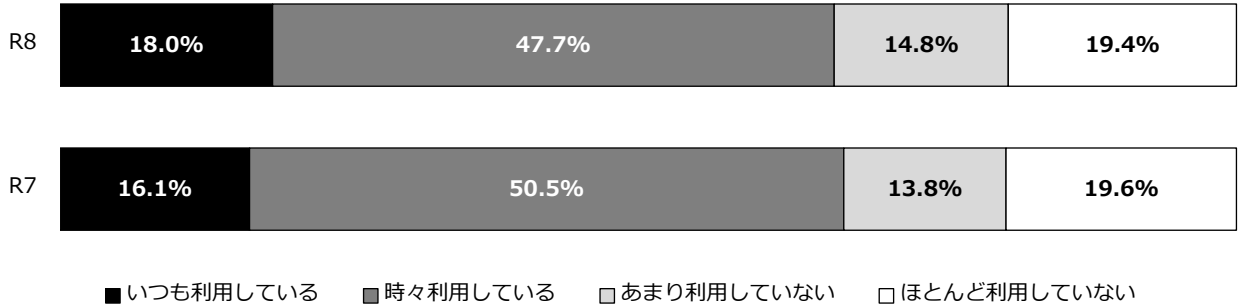
(圏域別内訳)



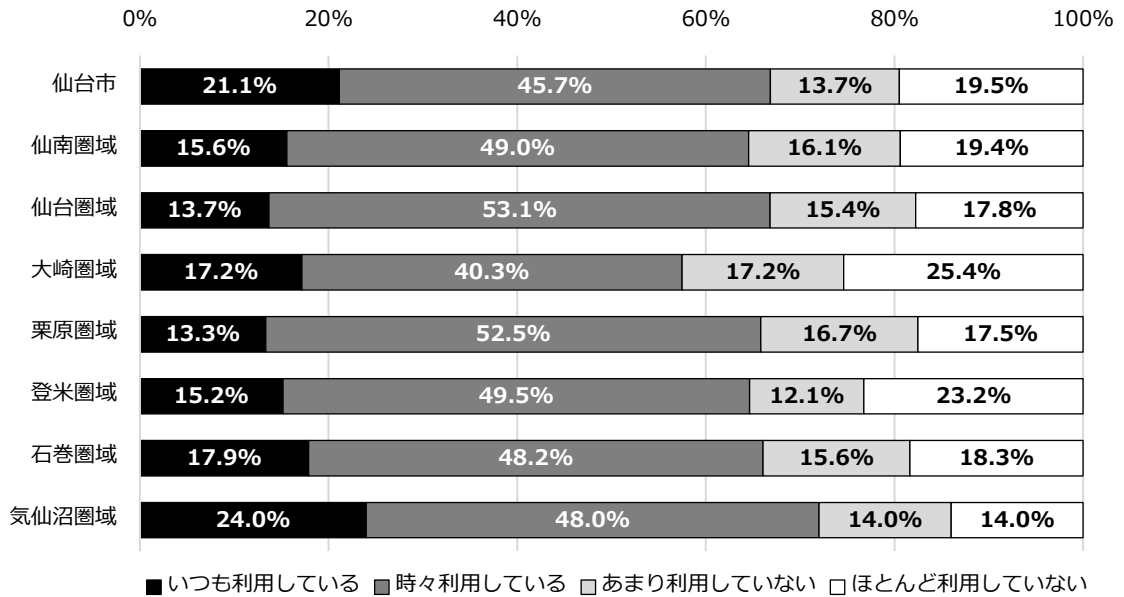
【概要・考察等】

- 居住する地域において、参加できるイベントや催しが「ある」と回答した割合は、昨年度とほぼ同様である。
- 圏域別では、気仙沼、仙南、登米について「ある」と回答した割合が高く、実践事例やイベントの周知方法などを好事例として、今後も紹介していく必要がある。
- 「分からない」と回答した割合が6割程度であり、依然として高い割合であることから、イベントや催しの周知方法に工夫が必要である。

3-4 遊び場として、公園や公民館、児童館などのコミュニティ施設を利用していますか。



(圏域別内訳)

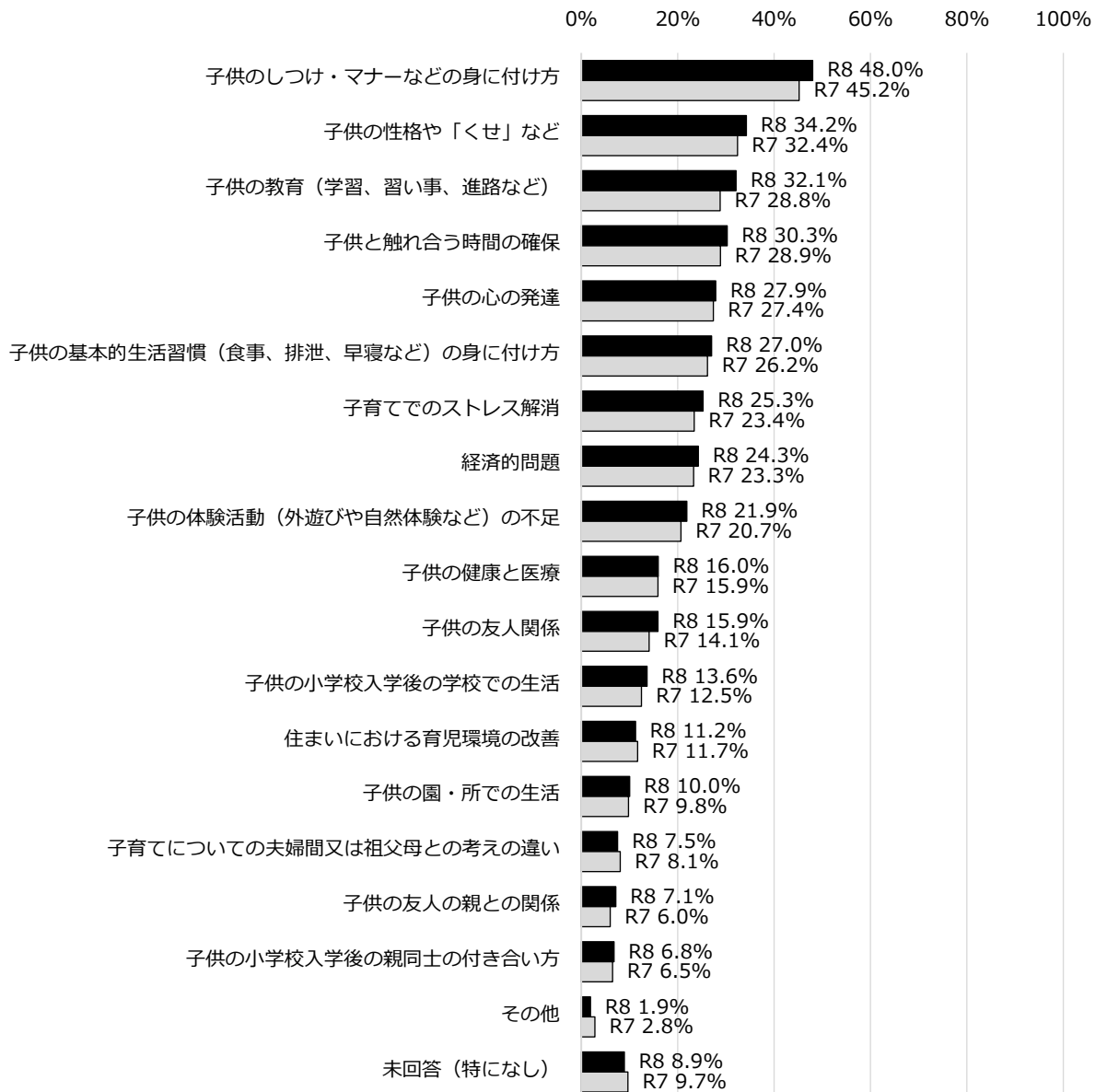


【概要・考察等】

- 遊び場としてコミュニティ施設を「いつも利用している」「時々利用している」と回答した割合は、昨年度より0.9ポイント減少した。
- 圏域別では、全ての圏域で「いつも利用している」「時々利用している」と回答した割合は5割以上であった。
- 遊び場としてコミュニティ施設を活用する方法について情報提供していくなど、活用をより一層促進していく必要がある。

4 幼児教育の環境について

4-1 子育てで悩んでいることがありましたら、その内容をお答えください。



【その他の主な内容】

身体的発達、仕事と子育ての両立、子供の遊び場の減少、子供の障害

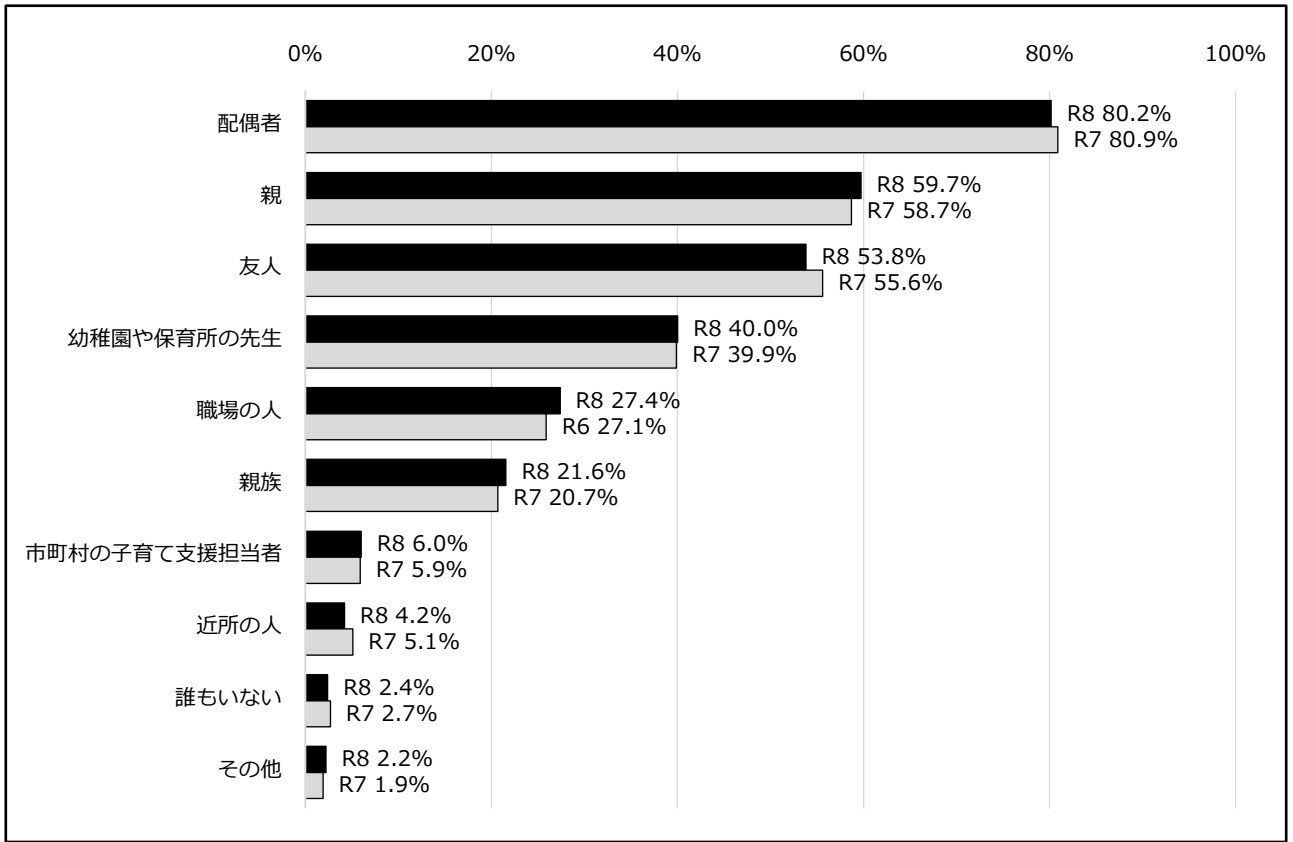
(今年度の年齢別上位項目)

年齢 順位	0 歳	1 歳	2 歳	3 歳	4 歳	5 歳	6 歳
1 位	触れ合う時間	しつけ・マナー	しつけ・マナー	しつけ・マナー	しつけ・マナー	しつけ・マナー	しつけ・マナー
2 位	経済的問題	触れ合う時間	基本的生活習慣	基本的生活習慣	性格・くせ	性格・くせ	性格・くせ
3 位	しつけ・マナー	基本的生活習慣	触れ合う時間	性格・くせ	子供の教育	子供の教育	子供の教育
4 位	子供の教育 基本的生活習慣 健康と医療	健康と医療	性格・くせ	子供の教育	心の発達	心の発達	心の発達
5 位		経済的問題	子供の教育	触れ合う時間	触れ合う時間	触れ合う時間	ストレス解消 学校での生活 友人関係

【概要・考察等】

- 「子供のしつけ・マナーなどの身に付け方」「子供の性格や『くせ』など」「子供の教育（学習、習い事、進路など）」と回答した割合が高かった。
- 年齢別で見ると、1～6歳児では、「しつけ・マナー」と回答した割合が最も高かった。
- 「子供の教育」との回答は、2歳児から多くなる傾向が見られた。
- 全項目で回答があり、子育ての悩みが多岐にわたっていることがうかがえる。
- 「その他」では、「身体的発達」「仕事と子育ての両立」「子育ての環境」に関する記述が見られた。

4-2-1 子育ての悩みについて誰に相談していますか。（該当するもの全て選択）



【その他の主な内容】

SNS、生成AI、かかりつけ医、子育て支援施設

4-2-2 「4-2-1」で「誰もいない」を選択した方は、どのような相談先があれば利用しやすいですか。

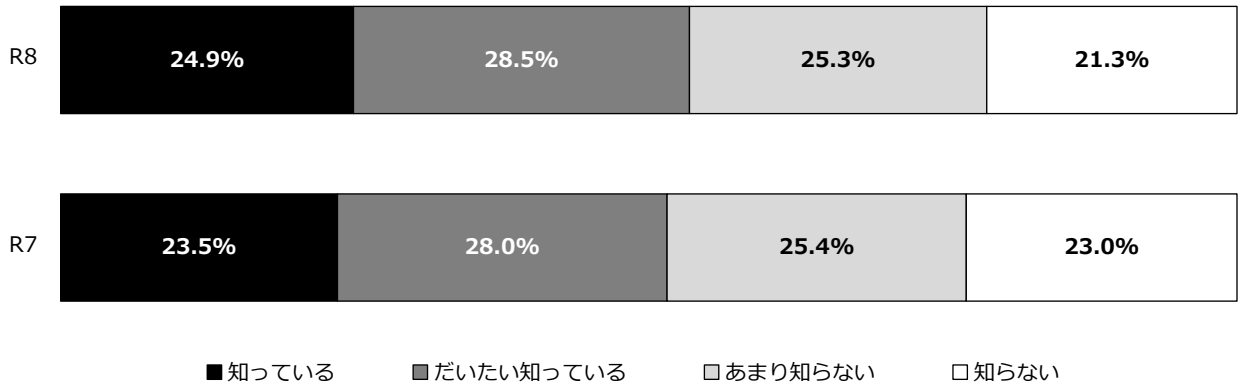
【主な内容】

休日の相談窓口、匿名・無料の相談窓口、行政の子育て支援担当者、チャットで相談できるサービス

【概要・考察等】

- 子育ての悩みについて相談する人がいると回答した割合は、昨年度とほぼ同程度で、97.6%だった。
- 昨年度と同様、「配偶者」「親」「友人」の順に回答した割合が高く、身近な人に相談する傾向があることがうかがわれる。
- 相談する人がいる割合は97.6%で、悩みがある場合に誰かしらに相談ができている状況だが、「誰もいない」と回答した2.4%の保護者については、悩みを抱えたままの子育てにより、精神的な疾患や虐待等に発展する事案もあることから、引き続き子育ての悩みを相談できるような場の周知について、工夫していくことが必要である。

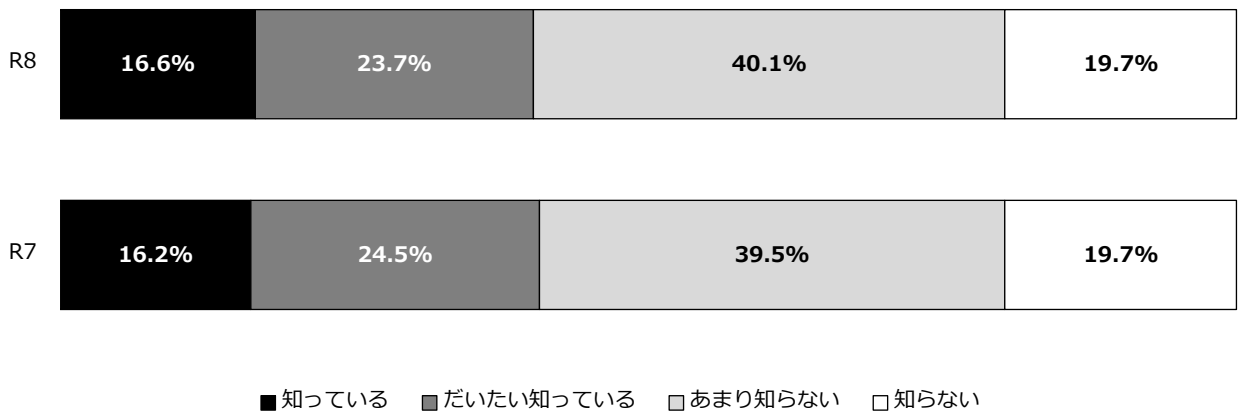
4-3 お子さんの行動（落ち着きがない、パニックを起こしやすいなど）が気になるときの相談先を知っていますか。



【概要・考察等】

- 子供の行動が気になるときにどこに相談すればよいか「知っている」「だいたい知っている」と回答した割合は、昨年度より1.9ポイント増の53.4%であった。
- 「知っている」「だいたい知っている」と回答した割合は、ほぼ半数であるため、保護者の目線に立った相談窓口や情報提供の在り方を整理していく必要がある。

4-4 発達障害（ADHD、LD、自閉症など）の特性や発達障害がある方への接し方などについて知っていますか。



【概要・考察等】

- 発達障害の特性や発達障害がある方への接し方などを「知っている」「だいたい知っている」と回答した割合は、昨年度より0.4ポイント減少した。
- 発達障害への適切な理解を促進していくため、引き続き発達障害に関する情報や学ぶ機会を提供していく必要がある。